

(1)児童の体力の現状

○H30年度とH29年度の本校児童の体力・運動能力調査の記録を比較すると、前年度の記録を上回る種目が多くなり、中でもここ数年来本校の課題である「握力」「シャトルラン」「ソフトボール投げ」で児童に徐々にあるが力がついていることが明らかになった。

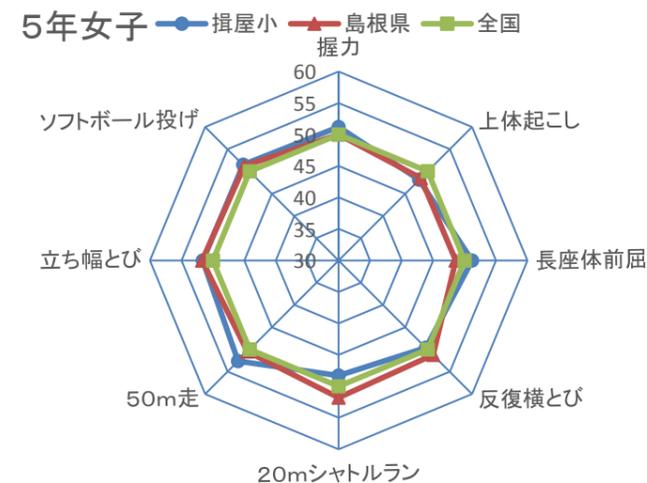
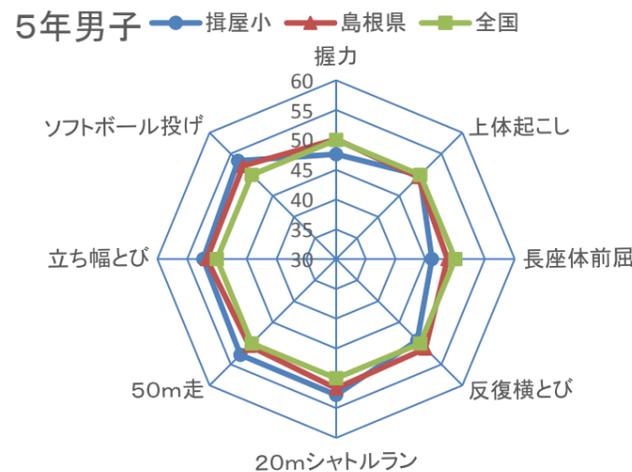
○高学年を中心に、県の体力・運動能力調査の記録を上回る種目が見られた。

○H30年度の6年生の水泳運動「25m完泳率」が78%、4年生の器械運動「逆上がり達成率」が64%となり、前年度よりも記録を上回ることができた。これも、授業の工夫や運動量の確保があったからではないかと考える。

●校内での力の伸びは見られるが、県平均と比べると記録を下回る種目が多く存在する。中でも男子の「長座体前屈」「立ち幅跳び」及び「中学年のシャトルラン」、女子の「反復横跳び」「立ち幅跳び」及び「4、5年生のシャトルラン」の県との差は大きく、今後課題として具体的な取組を考えていく必要がある。

●男女間、運動をする児童とそうでない児童との運動能力の差が見られる。

(4)5年生 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



(2)30年度の具体目標の達成状況と課題

○運動が好きと肯定的に捉える児童が5年生で男子で100%、女子で87.5%、その他の学年でも高い割合を示すなど、運動に親しみ、その良さを実感している児童が多い。

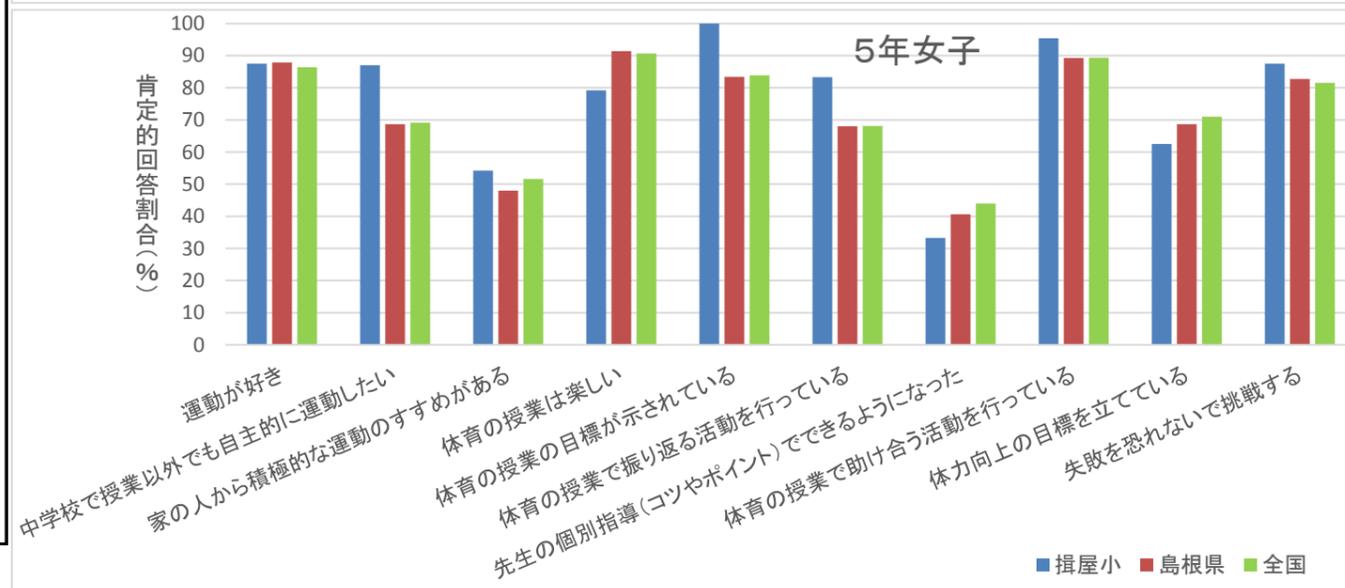
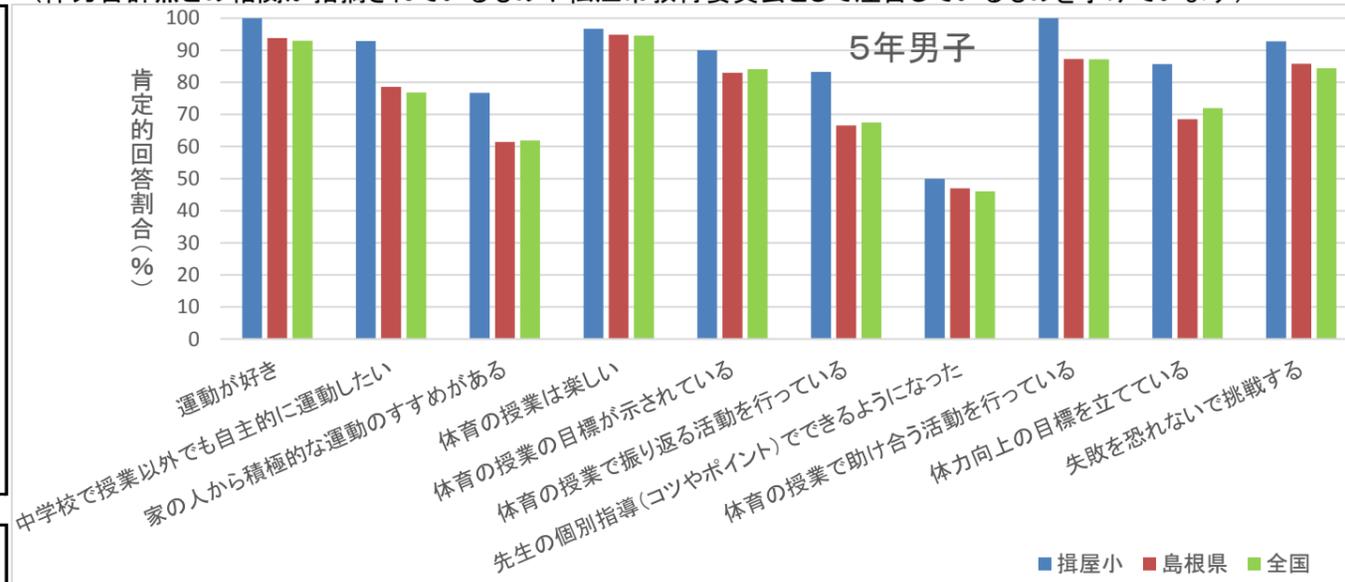
○「握力」「シャトルラン」「ソフトボール投げ」での記録が伸びてきている。5年生においては男女ともにソフトボール投げで県、全国の平均を上回るなど、近年全校で「投げる力」をつけるために意識して取り組んできた結果だと考える。今年度は、投げ方のフォームを意識させるために、紙鉄砲を作って鳴らすことなどを全校で取り組んだ。

●個別指導によって技能向上を実感した児童のポイントが低く、個別指導が十分でないと感じている児童が多い。

●女子の「家の人から積極的な運動のすすめがある」「体力向上の目標を立てている」という項目のポイントが低い。

(5)全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査 5年生意識調査の結果

(体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)



(3)31年度の取組【対策】

①学校における取組

- ・つけたい力を明確にし、児童が主体的に目標をもって運動に向かえるような指導の工夫を行う。
- ・今年度の体力・運動能力調査の結果をもとに、児童一人一人に目標をもって取り組ませるようにする。
- ・5種目歩走を継続して取り入れたり、各種運動カード、体づくりチャレンジカード(鉄棒、登り棒、雲梯を利用したカード)を効果的に利用したりする。
- ・児童会活動が中心となり、「全校リレー大会」「全校ドッジボール大会」「全校なわとび持久跳び大会」などの体育的行事を行う。

②地域や家庭との連携による取組

- ・体育通信や学級だよりなどを通して、学校での運動に対する取り組みを伝えたり、運動の家庭への啓発活動を行ったりする。そうすることで、豊かな運動経験に向けた連携意識を高めていく。

③体力向上をめざした生活習慣の確立、食育推進の取組

- ・栄養教諭と連携した食育の授業を実施する。
- ・PTA主催の「がんばりカード(睡眠、食事、メディア)」を活用し、自分自身の身体や健康の大切さを再確認させたり、意識をして個々の児童が生活を送ったりできるようにする。
- ・全校朝礼での良い姿勢、掃除時の机と椅子を持って運ぶ、雑巾の絞り方の指導など、日常生活の中で体力への意識化と体づくりを行う。

調査実施者数(人) 1年(男子26・女子20) 2年(男子24・女子35) 3年(男子27・女子27)
4年(男子18・女子27) 5年(男子30・女子24) 6年(男子23・女子32)